

## リファレンスブック 修正箇所

修正前	修正後
<p>① P323:26 行目</p> <p>3) アクティブ・チャイルド・プログラム</p>	<p>① P323:26 行目</p> <p>3) <b>アクティブ チャイルド プログラム (JSPO-ACP)</b></p>
<p>② P323:1 行目</p> <p>アクティブ・チャイルド・プログラムでは、指導法・指導技術について①よい指導者としての観点、②指導のコツ、③アレンジの仕方や発想、④安全管理上の配慮事項、から取り扱っている。</p>	<p>② P323:1 行目</p> <p>アクティブ・チャイルド・プログラムでは、指導法・指導技術について①よい指導者としての観点、②<b>アレンジの仕方や発想</b>、③<b>安全管理上の配慮事項</b>、④<b>熱中症予防</b>、⑤<b>感染症への配慮</b>、から取り扱っている。</p>
<p>③ P323:8 行目</p> <p>1) 多様な動きを経験させる（楽しさの中で、保護者への必要性の理解を）</p> <p>2) 一定の身体活動量と活動強度を確保する（楽しさ重視、トレーニングにならない）</p> <p>3) 発育・発達の個人差に配慮する（成果を求めすぎない）</p> <p>4) 次々にプログラムを展開させる（ゲーム性、「レパトリー」と「バリエーション」）</p> <p>5) できるようになったことを認めてあげる（肯定的に、成果だけでなく過程も）</p> <p>6) いつも元気で楽しい雰囲気を作る（指導者も笑顔、やさしい言葉）</p> <p>7) 心の発達や社会性の獲得にも配慮する（話し合う場の確保、スキンシップ）</p> <p>8) 異年齢交流を積極的に利用する（リーダーの育成、思いやるこころの醸成）</p>	<p>③ P323:8 行目</p> <p>1) <b>まずはからだを動かす（時には挨拶もそこそこに、集まった子どもから遊びの輪を広げる）</b></p> <p>2) <b>多様な動きを経験させる（楽しく遊ぶことを通して多様な動きを経験する、その大切さを保護者に伝える）</b></p> <p>3) <b>一定の身体活動量と活動強度を確保する（楽しく遊ぶことを通して活動量と活動強度を確保する）</b></p> <p>4) <b>発育発達の個人差に配慮する（発育発達の個人差を理解する、子どもの特性に応じた働きかけを心がける）</b></p> <p>5) <b>次々にプログラムを展開する（多様なプログラムを設定する、ゲーム性の高い遊び、「レパトリー」×「バリエーション」）</b></p> <p>6) <b>できるようになったことを認める（肯定的な言葉の積み重ね、動きの上達を見極める、成長した点を認める）</b></p> <p>7) <b>いつも元気で楽しい雰囲気をつくる（表情や感情の表現に気をつかう、いつも元気に明るく楽しそうな雰囲気をつくる）</b></p> <p>8) <b>こころの発達や社会性の獲得にも配慮する（しかる場面は二つだけ＜道徳に反すること、危険なこと＞、時には「見守る」「待つ」）</b></p> <p>9) <b>異年齢交流を積極的に利用する（思いやり、リーダーシップ、年上の子どもに対する指導的な配慮）</b></p> <p>10) <b>指導に関する情報を共有する（計画的な指導や安全管理のために指導者間で情報を共有する）</b></p>